

2025年03月25日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【現状では、明確なトレンドを見出し難いが・・・】

現在の外国為替相場では、明確な方向性(トレンド)を見出し難い、と考えています。

ドル/円相場を、大局で見ると、高値圏での持ち合い、と考えます。

この高値圏とは、

「高値160円程度、安値140円程度のボックス相場」

と言い換えることができます。

現時点では、明確な方向性(トレンド)を見出し難い、と考えているのは、先に述べた通りですが、時間が経過すると、ドル安円高方向に向かうのではないかと考えています。

それは、円金利が、今後も上昇を続けることが確実であること。

そして、トランプ大統領が、「ドル安円高」を望んでいること。

今後、ドル安円高に向かうとすると、上記の2点が大きな根拠になる、と考えます。

+++++

ただし、現時点では、マーケット(市場参加者)は、

「トランプ政権がどのような政策を打ち出してくるのか」

に集中しているように見えます。

トランプ政権が関税、追加関税を課すことで、相手国も対抗的に、関税、追加関税を課す、といった対立構造が垣間見えます。

当面のところは、この対立構造で、それぞれの国の経済がどうなるのか、それを見極めることになるのでしょう。

しかし、時間が経過すれば、こういった保護主義的な政策が、それぞれの国にとって、マイナスの経済効果になることが明らかになる、と考えています。

確かに、トランプ大統領は、「米国第一主義」を唱えて、米国の利益を追及しているのだろう、と判断します。

しかしながら、米国の産業を、関税、追加関税といった保護主義で守ったとしても、一般の米国民は、高い価格で物品の購入を余儀なくされるのだから、果たして、それが本当に米国全体の利益になるのであろうか、といった疑問が生じます。

トランプ政権が、このまま関税、追加関税をメインに对外政策を進めると、その歪みや悪い効果が、米国経済を下押しする可能性も否定できない、と考えます。

+++++

ただし、上記のような批判的なコメントに、現在のトランプ政権が耳を傾けるとは思えません。

だから、当面のところは、トランプ政権が打ち出した政策が、どのような効果を与えるのかを、見極めることになる、と考えます。

+++++  
+++++

トランプ大統領が、「ドル安円高」を望んでいることは、彼の発言から、明白である、と考えます。

現時点では（つまり、現状の為替水準では）、日本の立場も、トランプ大統領と同様に、「ドル安円高」を望んでいる、と考えます。

円金利が上昇するにつれて、あるいは、長期国債の価格が下落するにつれて、「ドル安円高」の傾向が強くなるのではないかと考えています。

+++++  
+++++

(2025年03月25日東京時間14:15記述)